



記者発表資料

令和3年度 甲府河川国道事務所の事業概要

甲府河川国道事務所では、「国民の安全・安心の確保」や「豊かで暮らしやすい地域づくり」に向け、令和3年度は、約107億円（維持管理費、調査費等を除く）の事業費をもって、河川・道路事業を実施します。

【主な河川事業】

■富士川河川改修事業

・浸水被害の解消、大規模災害時の迅速な復旧活動のため、富士川で、『切石・手打沢地区築堤』や『木島地区河川防災ステーション』等の整備を推進します。

■富士川流域治水プロジェクト

・激甚化・頻発化する豪雨災害に対し、富士川流域全体であらゆる関係者が協働して取り組む治水対策「流域治水」を推進していきます。

【主な道路事業】

■改築事業

・『中部横断自動車道（下部温泉早川IC～南部IC間）』は概ねの工事は夏頃完了し、令和3年9月開通を目指します。

・『大月バイパス』は令和4年春頃の開通に向け整備を推進します。

・『新山梨環状道路 北部区間』は令和4年度の桜井地区の用地買収着手に向け調査設計を推進します。

・『新屋拡幅』は道の駅富士吉田前交差点改良について令和3年度内の完成予定です。

■交通安全事業

・『万沢歩道整備』『明神前歩道整備』に新規着手します。

・『三社神社入口交差点改良』『一ツ谷交差点改良』は用地買収に着手します。

■無電柱化事業

・道路の防災性向上や景観形成のための『甲斐電線共同溝』『富士北麓電線共同溝』等の無電柱化の整備を推進します。

■道路調査

・『中部横断自動車道（長坂～八千穂）』の事業化に向けて、都市計画、環境アセスメントを進めるための調査等を実施します。

・『田野倉バイパス』について具体化に向けた調査を推進します。

・『国道20号防災』については防災課題解消に向けた調査を推進します。

【事務所全体】

・法雲寺橋は令和3年度内の本復旧に向けて推進します。

・インフラDXの推進を図るため建設産業・管理の生産性向上に向け、3次元データを活用した取組(i-Construction)を進めます。

発表記者クラブ

山梨県政記者クラブ、静岡県政記者会、神奈川建設記者会、竹芝記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 甲府河川国道事務所

住所：山梨県甲府市緑が丘1丁目10-1 電話055-252-5491（代表）

地域広報官：河川副所長 阿部昌幸（あべまさゆき）、道路副所長：松澤尚利（まつさわ なおとし）1/38

目 次

【河川事業】

管内図（河川）	3
事業費（河川）	4
富士川切石・手打沢地区築堤 他	5
富士川木島地区河川防災ステーション	6
富士川高田地区護岸整備	7
笛吹川笛吹石和地区水辺環境整備 他	8
維持管理	9
流域治水プロジェクト	11

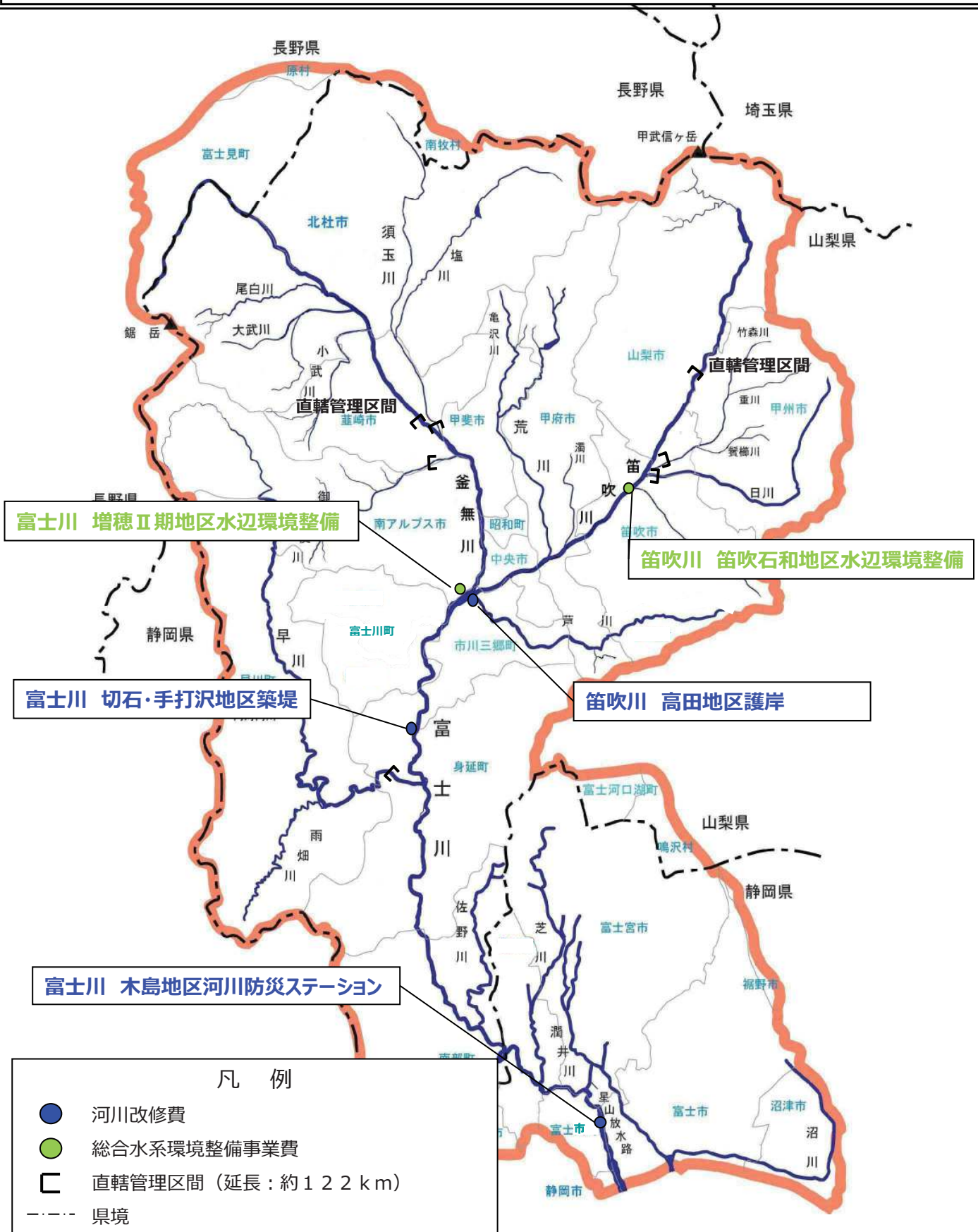
【道路事業】

管内図（道路）	12
事業費（道路）	13
中部横断自動車道（富沢～六郷）	14
国道 20号 新山梨環状道路 北部区間	15
国道 20号 大月バイパス	16
国道 20号 新笹子トンネル改修	17
国道 52号 上石田改良	18
国道 138号 新屋拡幅	19
国道 139号 都留バイパス	20
国道 20号 広瀬交差点改良	21
国道 20号 三社神社入口交差点改良	22
国道 20号 一ツ谷交差点改良	23
国道 52号 万沢地区歩道整備	24
国道 138号 明神前歩道整備 他	25
国道 20号 甲斐電線共同溝 他	26
国道 139号 富士北麓・富士北麓(2)電線共同溝 他	27
日本風景街道	28
維持管理	29
道路メンテナンス会議	32
道路高架区間を緊急避難場所として活用	33

【災害対策・復旧・DX】

道路災害復旧事業 国道 20号 法雲寺橋災害復旧	34
防災・減災対策等強化事業推進(釜無川・笛吹川)	35
インフラDX	36

管内図(河川)



事業費(河川)

令和3年度 甲府河川国道事務所 事業費(河川)

(単位:百万円)

事業名		事業費
河川改修費	・富士川 切石・手打沢地区築堤 ・富士川 木島地区河川防災ステーション ・笛吹川 高田地区護岸整備	1,000
総合水系 環境整備事業費	・富士川 増穂Ⅱ期地区水辺環境整備 ・笛吹川 笛吹石和地区水辺環境整備	41
合計		1,041

※上記のほか、河川維持修繕費、諸経費等がある。

ふじかわ きりいし てうちざわ ちくてい
富士川 河川改修事業(切石・手打沢地区築堤)

【山梨県】直轄

【事業の概要】

みのぶちようきりいし てうちざわ

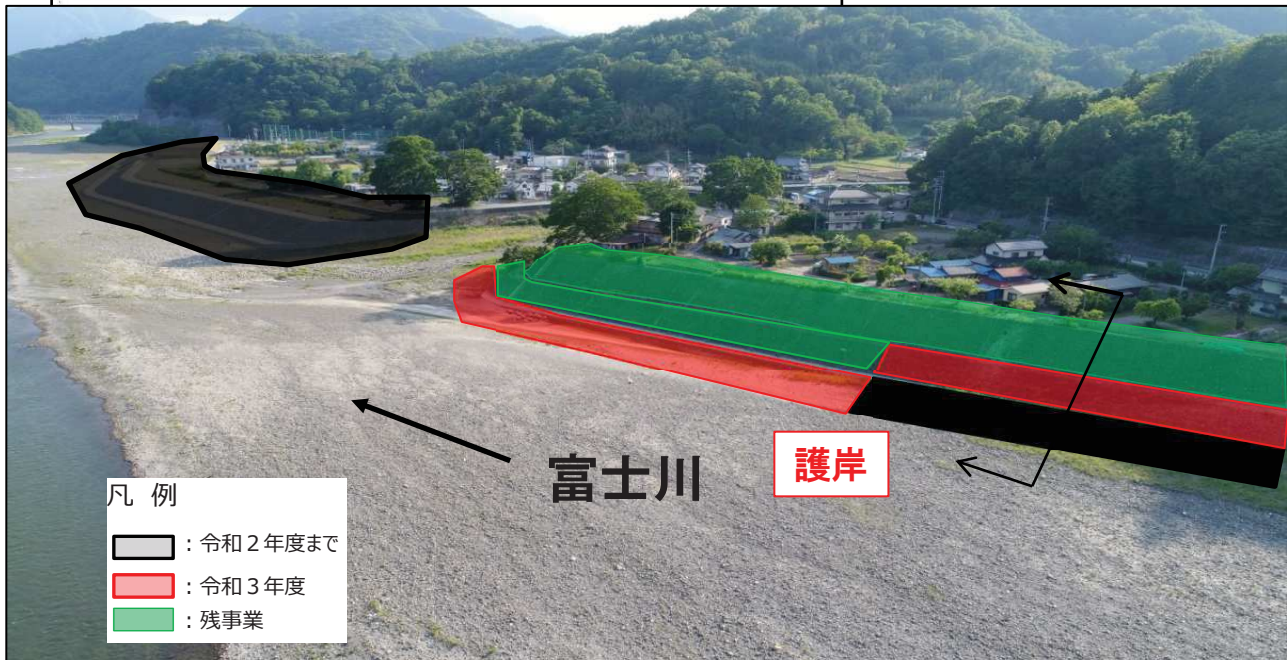
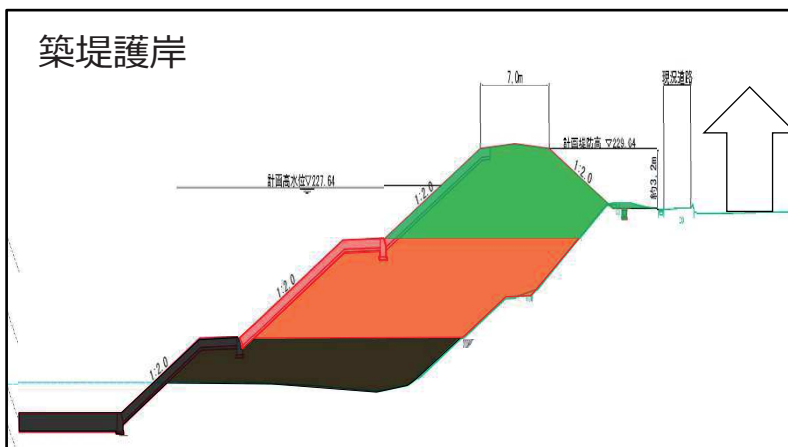
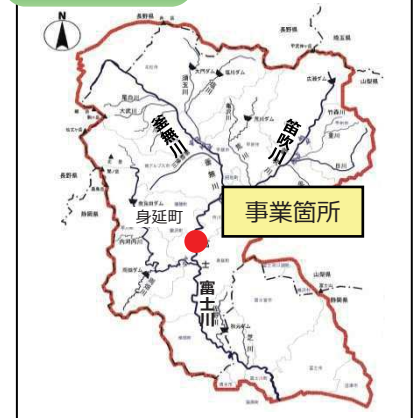
身延町切石・手打沢地区は、身延町役場があり、災害時には町の中核機能として重要な箇所ですが、昭和34洪水、昭和57洪水では堤防が無い、或いは低い箇所の為、浸水被害が発生しました。このため、築堤護岸整備を実施し、浸水被害の解消を図ります。

【令和3年度の予定】

きりいし てうちざわ

切石・手打沢地区の護岸整備を実施します。

位置図



【事業の効果】

無堤防地区の築堤護岸等を整備し、戦後最大降雨(昭和57年洪水)による浸水被害の解消を図ります。

ふじかわ きじま
富士川 河川改修事業（木島地区河川防災ステーション）

【静岡県】直轄

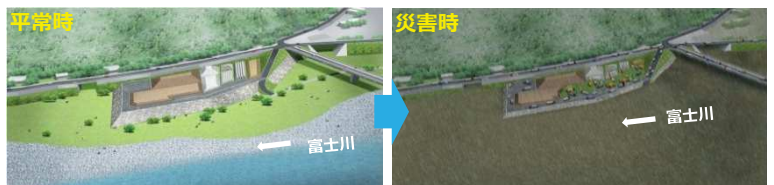
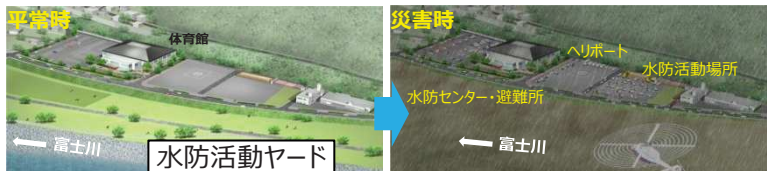
【事業の概要】

富士川下流部は人口、資産が集中する加島平野を抱えるとともに、東名高速道路や東海道新幹線等の東西日本を結ぶ大動脈が存在するため、ひとたび氾濫すれば甚大な被害が生じる恐れがあります。また、当地区は南海トラフ巨大地震による被害も懸念されています。

このため、氾濫時や大規模災害時において、迅速な復旧活動を行うための、河川防災ステーションを整備します。

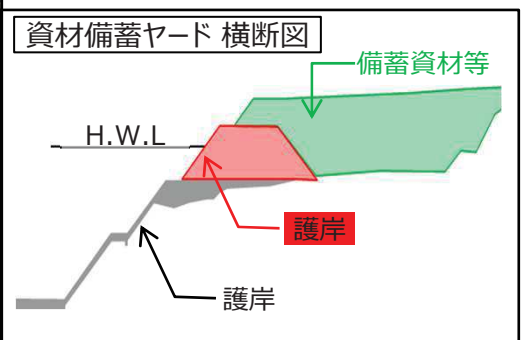
【令和3年度の予定】

資材備蓄ヤードの護岸の整備を実施します。



災害時においては、水防センターや一時避難場所として活用され、また、ヘリポートなど水防活動の拠点となります。

災害時においては、被災箇所の迅速かつ円滑な復旧活動を行うための資機材提供を行う拠点となります。



凡例

■ (Grey)	: 令和2年度まで
■ (Red)	: 令和3年度
■ (Green)	: 残事業

【事業の効果】

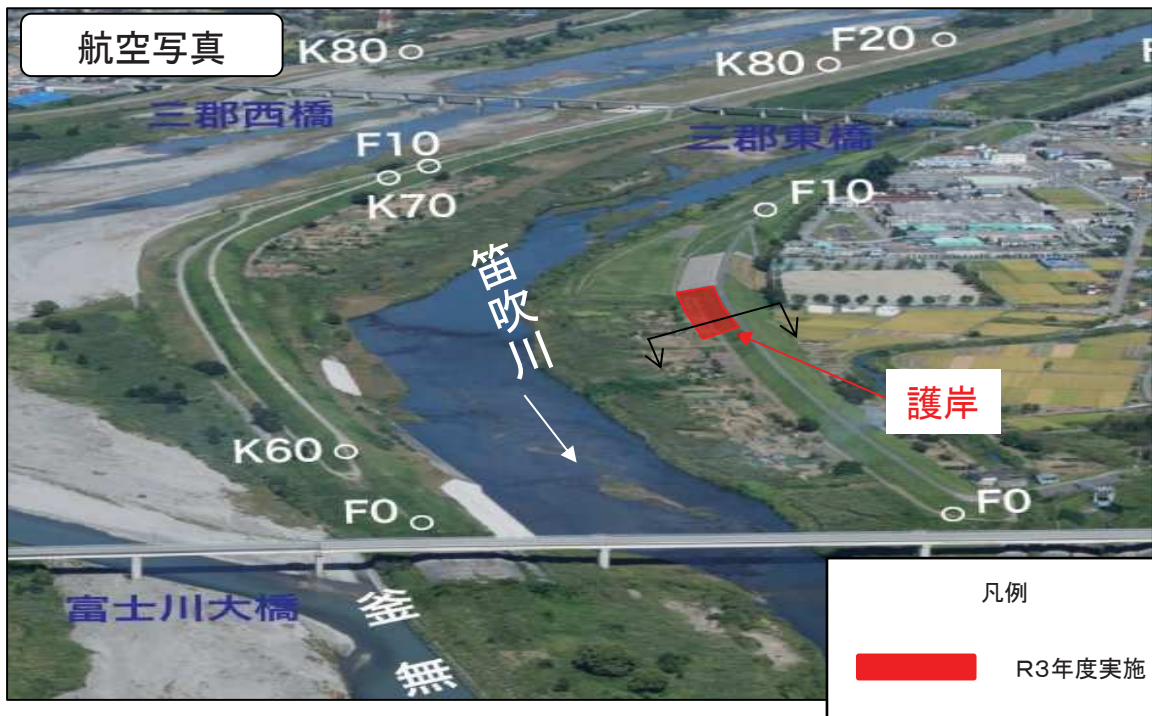
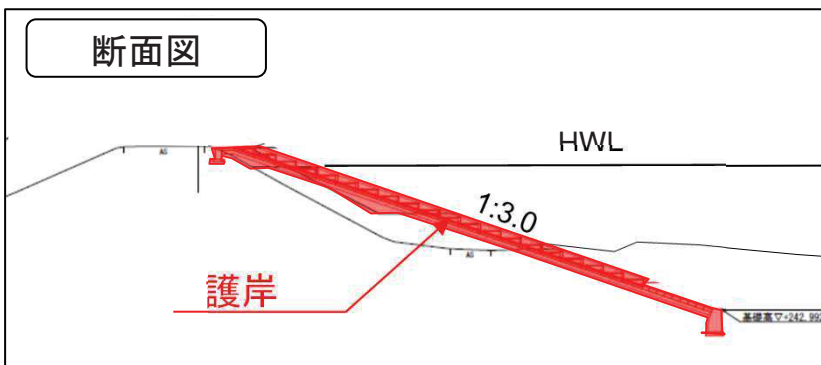
河川防災ステーションを整備することにより、大規模災害時において、迅速な復旧活動の拠点となります。

ふじかわ たかた
富士川 河川改修事業（高田地区護岸整備）

【山梨県】直轄

1. 事業概要

富士川の高田地区において洗掘対策のための護岸整備を実施し、堤防を強化し、早期に安全性の向上を図ります。



【事業の効果】

洗掘対策のため護岸を整備し堤防の強化を図ります。

【事業の概要】

現在、^{ふえふきがわ いさわ} 笛吹川の石和地区の下流においては、サイクリング、散策等の日常的な利用や、川中島合戦戦国絵巻、花火大会、体験型鶴匠等のイベントなど、様々な河川利用がなされています。

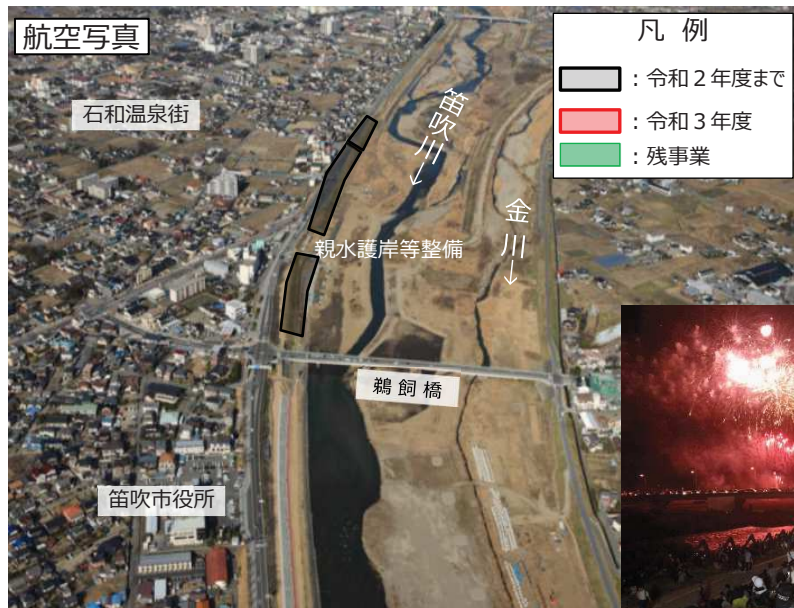
笛吹市における「^{かわなかじま} 笛吹市ミズベリング構想」では、笛吹川の石和地区、石和温泉街等の周辺地域も含めて一体的に整備を行うことにより、市民の憩いの場、観光資源として更に魅力的なまちづくりを目指しています。

本事業では、堤防強化と併せて、「^{かわなかじま} 笛吹市ミズベリング構想」を踏まえ、「^{かわなかじま} 笛吹市かわまちづくり」計画に基づき、河川利用上の安全安心を確保した上で水辺の活用を行うことができるよう親水護岸を整備し、河川空間の利用促進による地域活性化を図ります。

R2年度に親水護岸整備が完了し、R3年度は利用状況等のモニタリングを実施します。

【令和3年度の予定】

モニタリングを実施します。



【事業の効果】

^{ふえふき} 笛吹市の「かわまちづくり」と連携して親水護岸の整備を実施し、河川空間の利用促進により地域活性化に寄与します。

その他の環境整備事業

箇所名	令和3年度の事業内容
^{ますほ} 増穂Ⅱ期地区 水辺環境整備	モニタリングを実施

維持管理(1)

【事業の概要】

富士川は長野・山梨・静岡の3県にまたがる流域面積が3,990km²、幹線流路延長が128kmの一級河川で、そのうち甲府河川国道事務所で管理する延長は、富士川、釜無川及び笛吹川等合わせて約122kmです。

沿川住民が安心して生活でき、多くの人々から親しまれる河川とするために堤防、護岸、河川構造物等の河川管理施設の維持・管理や堤防除草、河川巡視や定期的な点検等を実施しています。

【令和3年度の予定】

○日常管理

- ・堤防、護岸や排水機場等の河川管理施設の点検を行います。点検により、変状が確認された際には、補修等を行います。
- ・堤防の状態を点検・把握するために堤防除草を実施します。
- ・川の機能が正常に保たれているか、また堤防や樋管などに変状がないかなど、管内の河川巡視を実施します。

堤防点検



河川管理施設の点検



堤防除草



河川巡視



維持管理(2)

○緊急時の対応

- ・洪水や地震が発生した場合は、堤防、護岸、樋門、及び排水機場などの状況を確認し、被災に対して迅速に対応します。



令和元年台風19号の出水の影響により
にらさきしもしょうひがしわり
河岸侵食が発生。(韮崎市下條東割地先)



・被災後、緊急対応として根固めブロックの設置を実施。

○河川の機能を維持するための工事

- ・洪水時の安全な流れの阻害となったり、河川の状況把握に支障となる河川内に繁茂した樹木の伐採を行います。



・河道内に著しく繁茂した樹木により、洪水時に水が流れにくくなります。また、河川の状況の把握が出来なくなります。

樹木伐採



(令和2年度実施箇所)
(韮崎市下条南割地先)

・樹木伐採により、洪水を安全に流下させます。また、河川の状況の把握が容易になります。

○コスト縮減への取り組み

- ・伐採した樹木については、一般へ無料配布を行うことにより処分費にかかる経費の縮減を行っています。
- ・平成27年度から、更なる経費の縮減を行うため、公募による樹木の伐採を行っており、今年度も継続して実施していきます。



(令和2年度無料配布の状況)
(静岡県富士市松岡地先)

流域治水プロジェクト

◆流域治水とは◆

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、堤防の整備などの対策をより一層加速するとともに、集水域(雨水が河川に流入する地域)から氾濫域(河川等の氾濫により浸水が想定される地域)にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考えです。

地域の特性に応じて、①「氾濫をできるだけ防ぐ・減らす対策」として堤防の強化や利水ダムの活用等、②「被害対象を減少させるための対策」として二線堤防の整備、③「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として広域避難計画の策定や講習会等によるマイ・タイムラインの策定・運用などをハード・ソフト一体で多層的に進めていきます。



◆流域治水プロジェクトとは◆

気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が主体的に治水に取り組む社会を構築する必要があります。

そのため、流域に関わる関係者が協働して治水対策に取り組むために、全国の一級水系において、河川管理者に加え、都道府県、市長村等の関係者が一堂に会する協議会を設立し、流域全体で早急に実施すべき対策の全体像を「流域治水プロジェクト」としてとりまとめ、ハード・ソフト一体の事前防災対策を加速することとしています。

◆富士川流域治水協議会での取組◆

富士川流域においては、令和2年9月に国・県・市町等からなる富士川流域治水協議会を設置し、必要な協議・調整を進め、令和3年3月に総勢29の関係者が協働して取り組む「富士川水系流域治水プロジェクト」を策定・公表しました。

富士川水系プロジェクトでは、甲府盆地をはじめとする富士川流域を水災害から守る流域治水の推進のため、二線堤・霞堤の保全・整備や道路施設を活用した避難場所の確保、利水ダム等の事前放流などを取り組んでまいります。

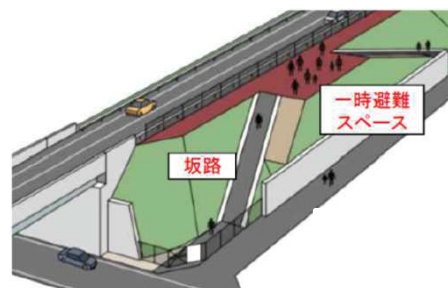
今後、フォローアップを定期的に行うなど、事前防災対策の着実な推進と流域対策のさらなる充実を図ってまいります。

『地図等を用いた災害教訓の“見える化”』



富士川流域における自然災害伝承碑の情報を登録し、地図を通じて過去の自然災害の教訓を防災教育に活用することで、地域住民の防災意識の向上が図られ、的確な防災行動による被害の軽減を目指します。

『道路区域に設けられる緊急避難施設のイメージ』



◆甲府河川国道事務所の取組◆

甲府河川国道事務所においては、令和2年12月に閣議決定された「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の計画的な推進や「富士川水系流域治水プロジェクト」に基づく流域治水の推進のため、氾濫域の市街地等を守る堤防整備・堤防強化や木島地区防災ステーションの整備についてより一層の加速化させてまいります。

●富士川流域治水協議会資料等関連リンク: <https://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/koufu00992.html>

管内図(道路)



(単位:km)

管理路線	延長
20号	102
52号	72
138号	14
139号	52
中部横断自動車道	15
合計	255

凡例	
	国道(甲府河川国道事務所管理区間)
	国道(甲府河川国道事務所整備区間)
	国道
	地域高規格道路(整備区間)
	地域高規格道路(調査区間)
	地域高規格道路(山梨県管理区間)
	地域高規格道路(山梨県整備区間)
	高速自動車国道および有料道路
	高速自動車国道および有料道路(整備計画区間(但し事業中を含む))
	高速自動車国道および有料道路(基本計画区間)
	高速自動車国道(直轄高速管理区間)
	高速自動車国道(直轄高速整備区間)

事業費(道路)

令和3年度 甲府河川国道事務所 事業費(道路)

(単位:百万円)

事業名		事業費	
改築事業		7,689	
	中部横断自動車道(富沢～六郷)	4,419	
	国道20号 新山梨環状道路 北部区間	1,150	
	国道20号 大月バイパス	965	
	国道20号 新笹子トンネル改修	250	
	国道52号 上石田改良	300	
	国道138号 新屋拡幅	505	
	国道139号 都留バイパス	100	
交通安全事業	国道20号 四方津地区歩道整備 国道20号 初狩地区歩道整備 国道20号 広瀬交差点改良 国道20号 三社神社入口交差点改良 国道20号 一ツ谷交差点改良 国道52号 万沢地区歩道整備(新規事業) 国道138号 明神前歩道整備(新規事業) 国道138号 山中湖自転車歩行者道整備 国道139号 上暮地歩道整備	562	
無電柱化事業	国道20号 甲斐電線共同溝 国道20号 甲府電線共同溝 国道20号 甲府住吉電線共同溝 国道20号 甲府国母住吉電線共同溝 国道20号 甲府徳行電線共同溝 国道139号 富士北麓電線共同溝 国道139号 富士北麓(2)電線共同溝 国道139号 本栖精進電線共同溝 国道139号 鳴沢電線共同溝	甲府圏域地域 富士北麓地域	1,161
合計		9,412	

※上記のほか、交通安全事業(Ⅱ種)、道路維持管理費、調査費等がある。

改築事業

中部横断自動車道(富沢～六郷)

令和3年度事業費:44.2億円

【事業の概要】

中部横断自動車道は、静岡県静岡市を起点とし、山梨県甲斐市を経由し長野県小諸市に至る延長約132kmの高速自動車国道です。

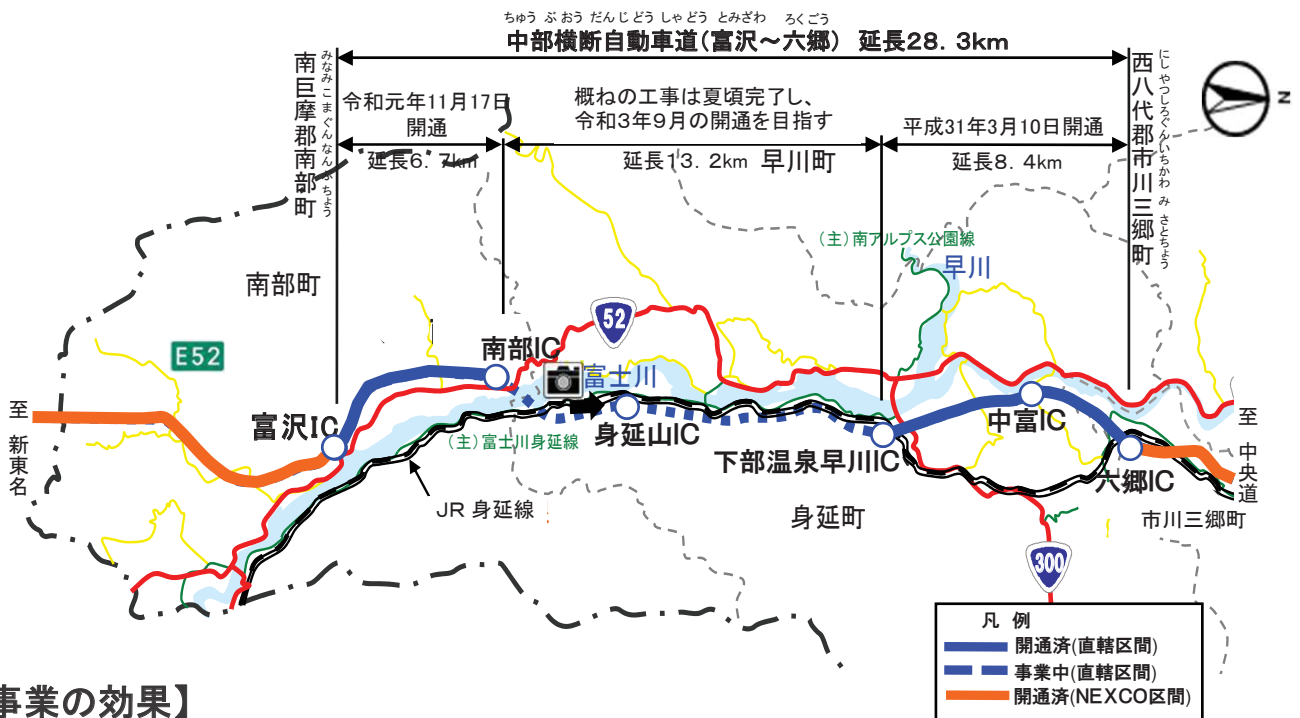
山梨県区間の富沢ICから六郷ICの28.3kmについては、平成17年度より直轄高速事業として着手し、事業を進めています。そのうち、下部温泉早川ICから六郷IC間8.4kmは平成31年3月10日、富沢ICから南部IC間6.7kmは令和元年11月17日に開通しました。



令和3年3月撮影 身延山IC付近施工状況

【令和3年度の予定】

富沢ICから六郷IC間のうち、南部ICから下部温泉早川IC間は概ねの工事は夏頃完了し、令和3年9月の開通を目指し、調査設計、改良工事、舗装工事、施設設備工事を推進します。



【事業の効果】

- 東海地震等による広域的な災害時の救急・救援ルートとして機能します。
- 地域間をつなぐ高速道路ネットワークの形成が図られ、広域的な物流体系や観光周遊ルートの形成などにより、地域を支える産業・雇用等の創出に寄与します。

改築事業 国道20号 新山梨環状道路 北部区間

令和3年度事業費:11.5億円

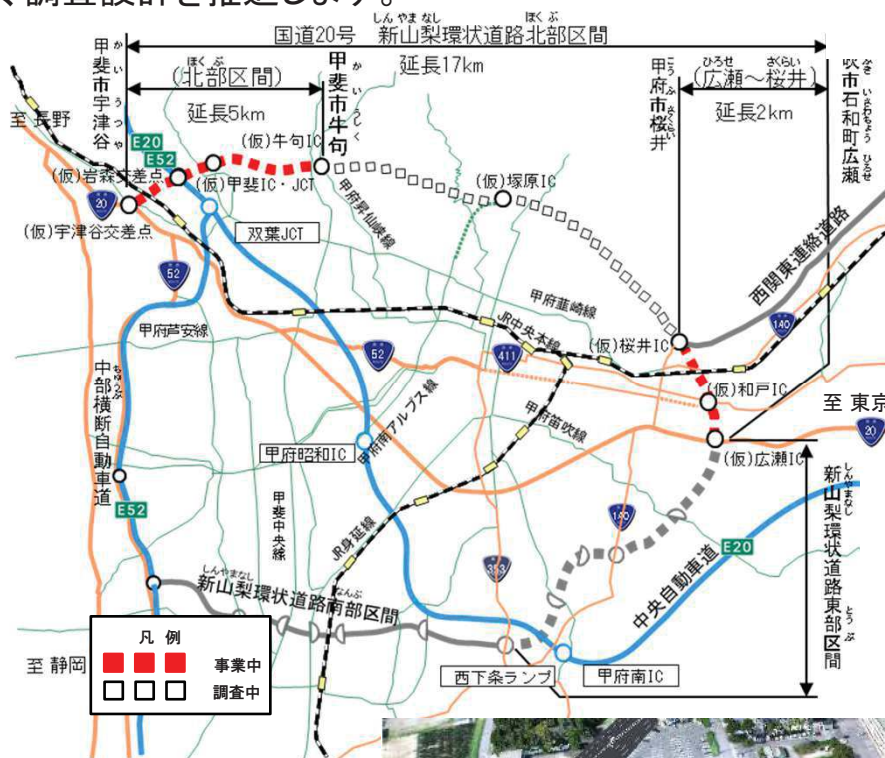
【事業の概要】

新山梨環状道路 北部区間は、甲府中心市街地から半径およそ5kmから7kmの位置に計画された環状道路の一部を形成する延長17kmの国道20号のバイパス事業です。

【令和3年度の予定】

(仮称)広瀬ICから(仮称)桜井IC間について、引き続き、令和4年度の桜井地区の用地買収着手に向け調査設計を推進します。

また、(仮称)牛匂ICから(仮称)宇津谷交差点間についても、引き続き、調査設計を推進します。



■新山梨環状道路(広瀬～桜井)においては、CIMモデルを作成し、地元説明会などで積極的に活用しています。



■CIMを活用した3次元モデルの設計イメージ

【事業の効果】

甲府中心市街地の通過交通の排除や流入交通の分散により、国道20号や国道140号、主要地方道甲府韮崎線など甲府圏域内の幹線道路の朝夕の慢性的な交通渋滞の緩和や交通事故の減少が期待されます。

改築事業

国道20号 おおつき 大月バイパス

令和3年度事業費: 9.7億円

【事業の概要】

国道20号 おおつき 大月バイパスは、おおつき 大月市内の市街地の混雑緩和と交通安全の確保を目的とした、こまはし 大月市駒橋から同市 おおつきまち 大月町花咲までの延長3.2kmのバイパス事業です。

平成19年度までに おおつき 大月市駒橋から こまはし 大月市大月二丁目 (国道139号) 間の延長1.7kmが開通しています。



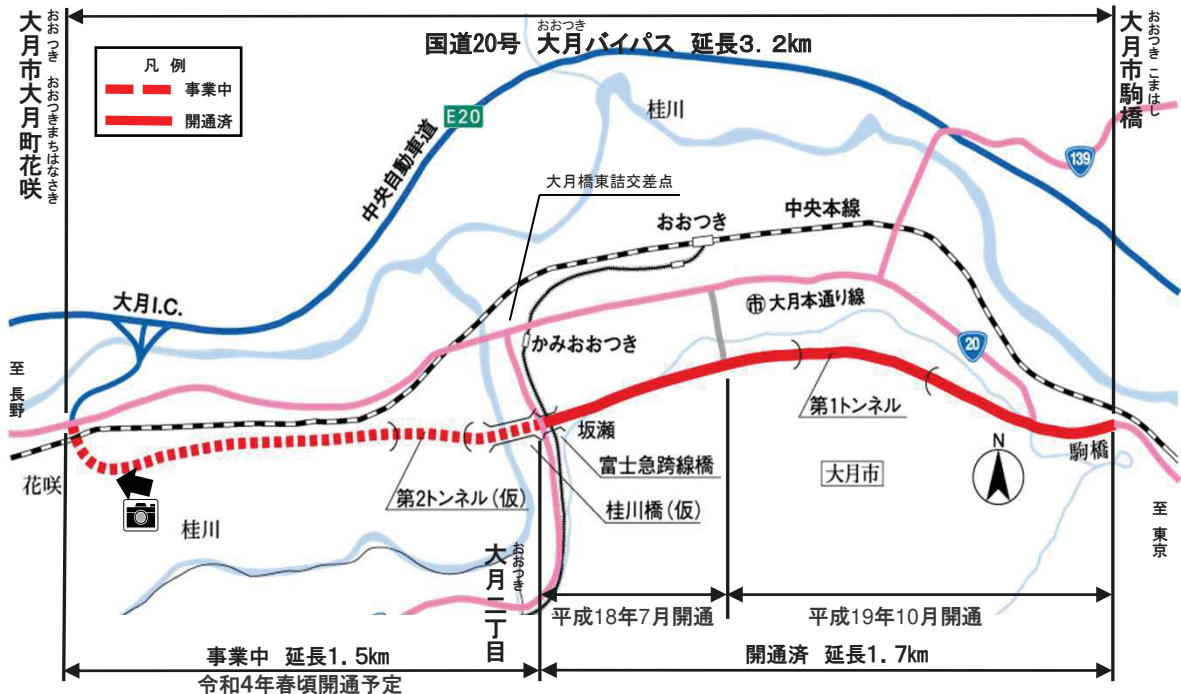
【令和3年度の予定】

令和4年春頃の開通に向け、調査設計、改良工事、舗装工事、施設・設備工事を推進します。



令和3年4月撮影

📷 施工状況
(甲府方面を望む)



【事業の効果】

- おおつき 大月市中心部の交通渋滞の緩和、通学路などの交通量減少による安全性の向上などの効果が期待されます。
- 世界遺産の富士山周辺の観光地へのアクセス性の向上が期待されます。

改築事業

国道20号 しんささご 新笹子トンネル改修

令和3年度事業費: 2.5億円

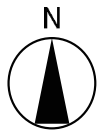
【事業の概要】

国道20号新笹子トンネル改修は、老朽化が著しく、また断面不足により背高コンテナの通行に支障をきたしている、山梨県大月市笹子町黒野田から甲州市大和町初鹿野の新笹子トンネルと、甲州市大和町初鹿野地先の観音トンネルの改修を行う事業です。

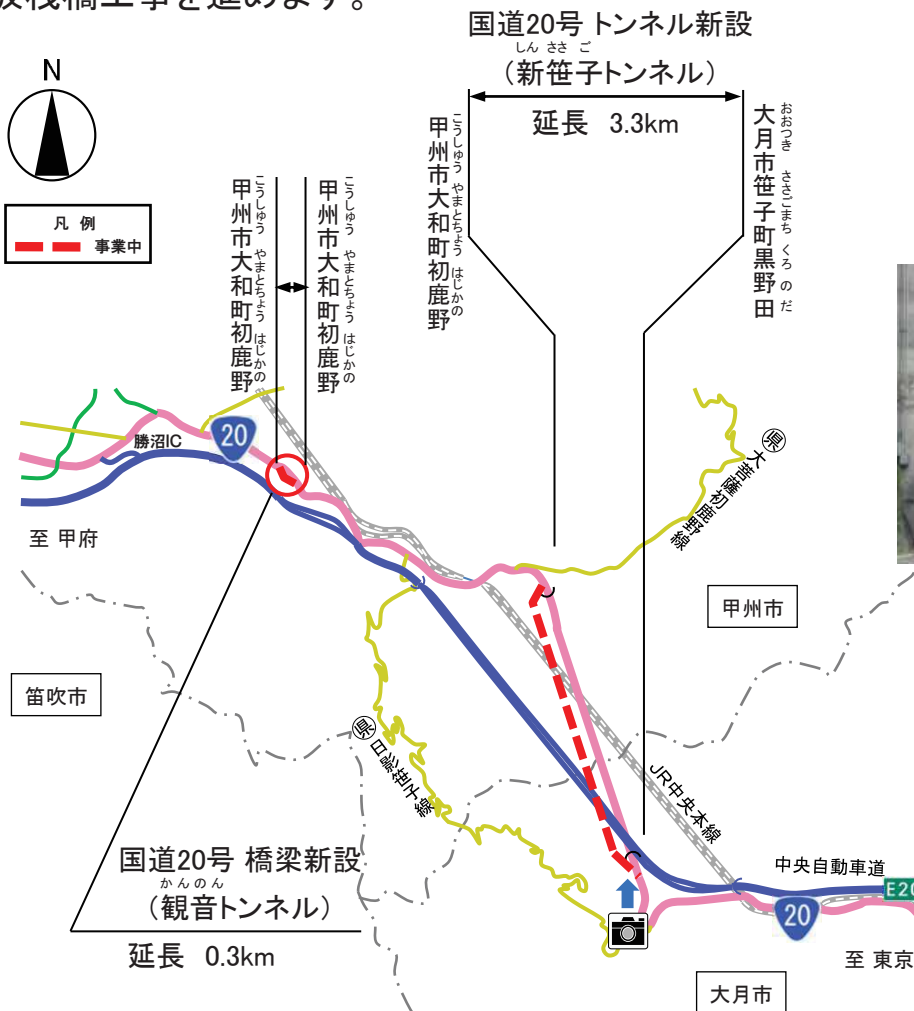
現在の新笹子トンネルについては、隣接地に新トンネルを整備し、観音トンネルについては、別線で橋梁を新設する計画としています。

【令和3年度の予定】

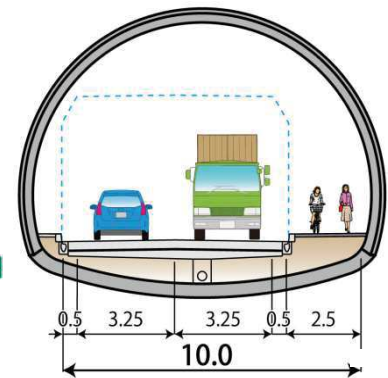
引き続き、調査設計、用地買収を推進し、笹子地区の仮栈橋工事を進めます。



凡例
— 事業中



【新笹子トンネルの交通状況】
平成25年8月撮影



【新笹子トンネルの改修計画断面】

【事業の効果】

- 新笹子トンネル改修が完成することにより、通過交通の安全を確保することができます。
- 背高コンテナ等の大型車の通行も可能になることから、広域物流支援につながることが期待されます。

改築事業

国道52号 上石田改良

令和3年度事業費: 3.0億円

【事業の概要】

国道52号上石田改良は、甲府市富竹一丁目から甲府市寿町に至る延長1.0kmの道路拡幅事業です。

平成26年4月21日には、甲府市上石田一丁目から甲府市寿町間の延長0.75kmの4車線化が完了しています。



【令和3年度の予定】

甲府市上石田一丁目から甲府市富竹一丁目に至る延長0.25kmにおいて、引き続き、調査設計、用地買収を推進します。



くがわ 貢川交番前交差点 交通状況 令和元年4月撮影



【事業の効果】

甲府市街地の交通渋滞の緩和、歩道設置等による歩行者の交通安全確保などが期待されます。

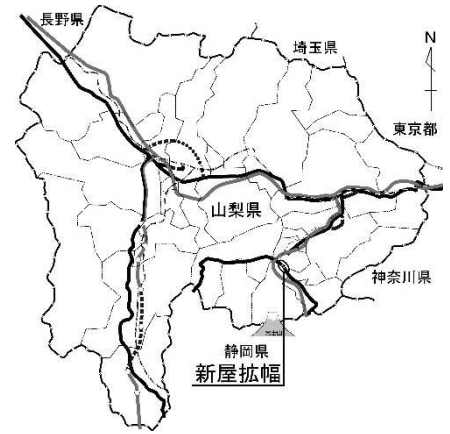
改築事業

国道138号 新屋^{あらや}拡幅

令和3年度事業費:5.1億円

【事業の概要】

国道138号新屋^{あらや}拡幅は、富士吉田市上吉田七丁目^{ふじよしだ かみよしだ}から富士吉田市上吉田堰林^{ふじよしだ かみよしだ せきばやし}に至る延長2.6kmの道路拡幅事業です。



【令和3年度の予定】

引き続き、調査設計、用地買収、舗装工事を推進します。道の駅富士吉田前交差点改良については令和3年度内の完成予定です。



【事業の効果】

富士吉田市街地の交通渋滞の緩和、歩道整備による歩行者の交通安全確保及び災害時の避難路確保などが期待されます。

改築事業

国道139号 都留バイパス

令和3年度事業費: 1.0億円

【事業の概要】

国道139号都留バイパスは、都留市十日市場から都留市田原倉に至る延長約8.0kmのバイパス事業です。

平成22年度までに、主要地方道都留道志線から主要地方道四日市場上野原線までの延長5.6kmが開通しています。



【令和3年度の予定】

都留市田原から都留市井倉の一部区間において舗装工事等を推進します。



【事業の効果】

都留バイパスの整備により交通の転換が図られ、国道139号(現道)の混雑緩和、交通事故の減少が期待されます。

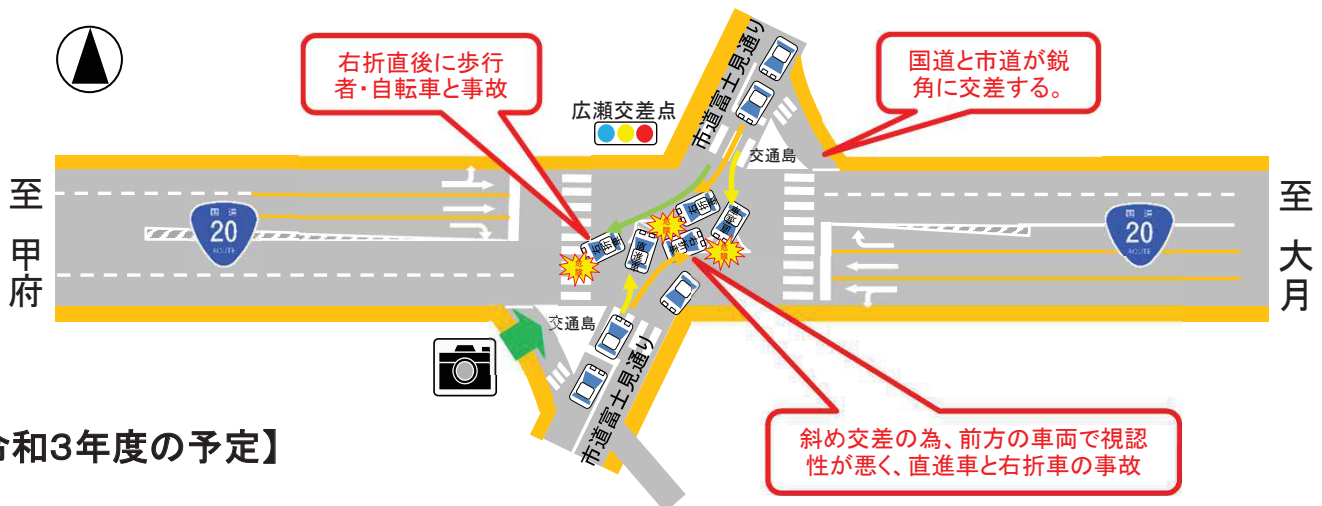
【事業の概要】

当該箇所は、国道20号^{ふえ ふき いさわ ひろ せ}笛吹市石和町広瀬地先に位置し、国道20号と市道富士見通^{ふじみ}りが斜めに交差しており、右左折時の視認性が悪く横断する自転車との接触事故が多発しています。また、斜め交差の影響で本線の停止線間が大きく、停止線付近での追突事故が発生している状況です。

本事業は、横断歩道や停止線の位置を前出しし、交差点のコンパクト化、視認性の向上を図る他、路面表示による走行車両への注意喚起や、右折時の走行軌跡の改善を行い、交差点の整備を行うものです。



[令和3年4月撮影]



【令和3年度の予定】

調査設計を推進します。

【事業の効果】

交差点形状の見直しを行うことにより、事故発生を軽減し、安全性の向上が期待されます。

交通安全事業 国道20号 三社神社入口交差点改良

令和3年度事業費:0.48億円

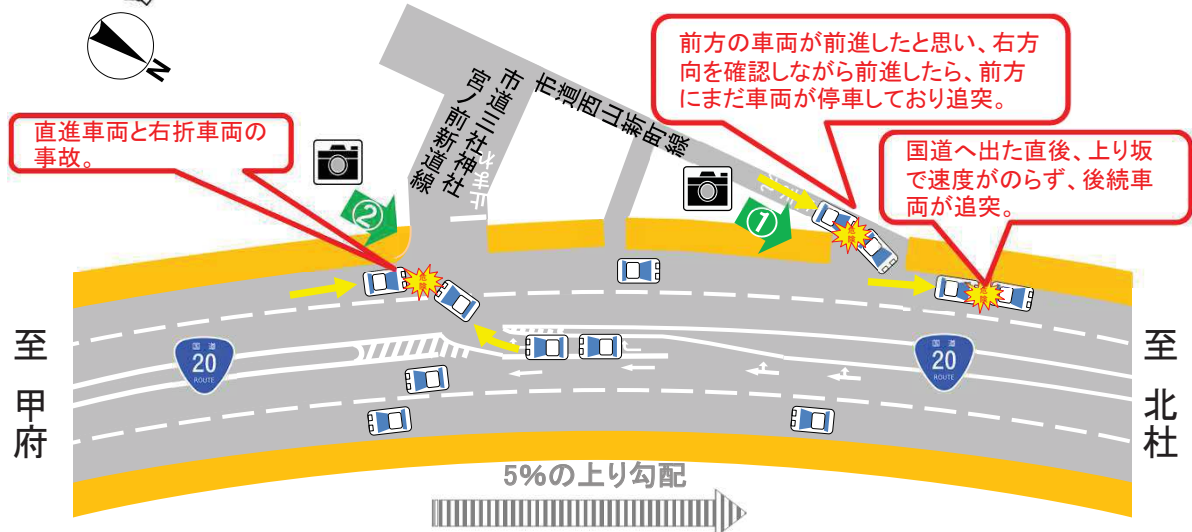
【事業の概要】

当該箇所は、国道20号甲斐市竜王地先に位置し、国道20号と甲斐市道2路線が近接する交差点で、市道から国道下り線への合流は、国道が上り勾配で、かつ北側交差点は鋭角で交差しており、追突事故が多発しています。死傷事故率は117.26件/億台と県内でも高い数字となっている状況です。

本事業は、甲斐市と調整を行い、交差点の集約化、右折レーンの延伸により交差点事故の防止を図るものです。



[令和3年4月撮影]



【令和3年度の予定】

調査設計、用地買収を推進します。

【事業の効果】

交差点形状の見直しを行うことにより、事故発生を軽減し、安全性の向上が期待されます。

ひとつや
国道20号 一ツ谷交差点改良

令和3年度事業費:0.57億円

【事業の概要】

当該箇所は、国道20号^{にらさき} 一ツ谷^{ひとつや}地先に位置し、国道20号から国道141号^{にらさき} 荳崎IC方面へ右左折する車両が多く、直進車両の進行を阻害している交差点であり、車両の滞留による追突事故が多発しています。死傷事故率は 162.48件/億台キロと県内でも高い数字となっている状況です。

本事業は、左折路の新設及び右折レーンの延伸を実施し、車両の渋滞の緩和を行い、追突事故の低減を図るものです。



[令和2年3月撮影]

左折車両が続くと直進が阻害され渋滞の原因になる



【令和3年度の予定】

調査設計、用地買収を推進します。

【事業の効果】

交差点形状の見直しを行うことにより、事故発生を軽減し、安全性の向上が期待されます。

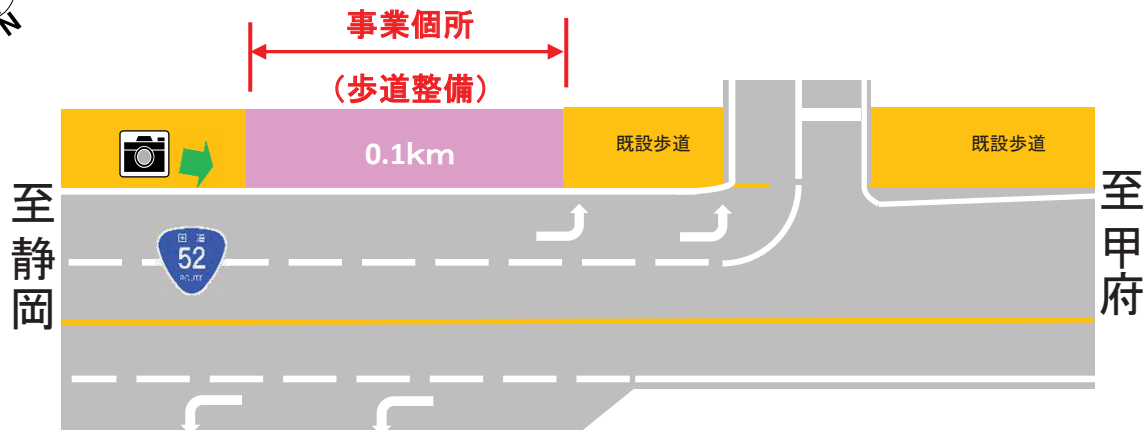
【事業の概要】

当該箇所は、国道52号南巨摩郡南部町万沢地先の区間で、前後区間は歩道が整備されていますが、当該箇所は歩道が設置されておらず、大型車両が通過する真横を歩行者が通行するなど危険な状況です。また近年は登山を行う目的で、当該箇所を利用する歩行者が増加傾向となっています。

本事業は、歩道を新設することにより、安全で安心な歩行空間を確保するものです。



[令和2年5月撮影]



【令和3年度の予定】

調査設計を推進します。

【事業の効果】

当該箇所に歩道が整備されることにより、歩行者の安全・安心の向上が期待されます。

交通安全事業

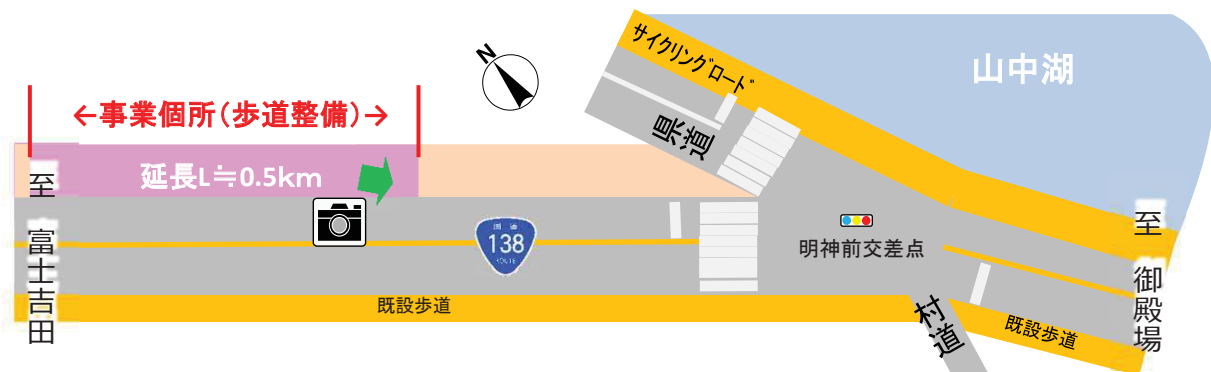
国道138号 明神前歩道整備

令和3年度事業費:0.2億円

【事業の概要】

当該箇所は、国道138号南都留郡山中湖村山中に位置し、周辺には山中湖があることから観光シーズンには多くの観光客が訪れる地区です。国道138号下り線については、前後区間の歩道は整備されているが、当該箇所には歩道が設置されておらず、観光客が車道を歩いているなど危険な状況です。また通学路についても、現在は国道を大きく迂回するように設定をしなければならない状況となっています。

本事業は、歩道を新設することにより、安全で安心な歩行空間を確保するものです。



【令和3年度の予定】

調査設計を推進します。



[令和2年7月撮影]

【事業の効果】

当該箇所に歩道が整備されることにより、歩行者の安全・安心の向上が期待されます。

その他の交通安全事業

箇所名	2021年度事業内容
国道 20号 四方津地区歩道整備	調査設計、用地買収を推進
国道 20号 初狩地区歩道整備事業	用地買収を推進
国道138号 山中湖自転車歩行者道整備	調査設計、工事を推進
国道139号 上暮地歩道整備	工事を推進

無電柱化事業
(甲府圏地域)

かい
国道20号 甲斐電線共同溝

令和3年度事業費: 1.94億円

【事業の概要】

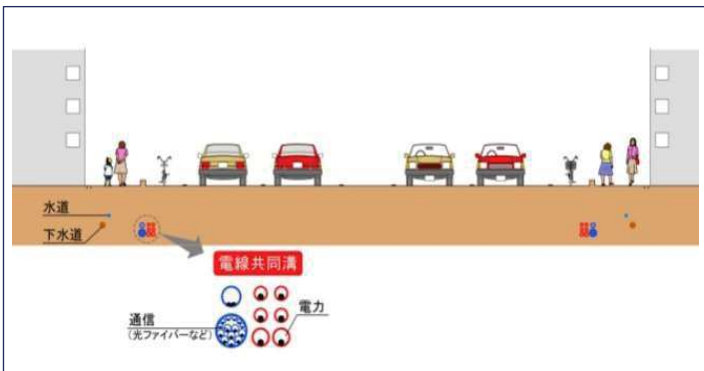
国道20号甲斐電線共同溝は、甲斐市富竹新田から竜王まで、延長2.6kmの電線共同溝を整備します。甲斐市市街地やその周辺地区の経済活動・防災対応の拠点となるエリアにおいて、無電柱化することにより、安全で快適な歩行空間の確保並びに震災時における緊急輸送道路の確保を図るとともに、良好な都市景観の形成に向けたまちづくりを支援するものです。

【令和3年度の予定】

調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進します。



■ 電線共同溝の整備イメージ



■ 状況写真



道路沿いの電柱・電線類

[令和元年4月撮影]

【事業の効果】

電線共同溝の整備により、道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成等に寄与することが期待されます。

【その他の無電柱化事業】

箇所名	令和3年度の事業内容
国道 20号 甲府電線共同溝	調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進
国道 20号 甲府住吉電線共同溝	調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進
国道 20号 甲府国母電線共同溝	調査設計を推進
国道 20号 甲府徳行電線共同溝	調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進

無電柱化事業
(富士北麓地域)

国道139号 富士北麓電線共同溝

富士北麓(2)電線共同溝

令和3年度事業費:2.56億円

【事業の概要】

国道139号富士北麓電線共同溝は、山梨県南都留郡富士河口湖町船津から富士吉田市上吉田間約7.4km、また、富士北麓(2)電線共同溝は、山梨県南都留郡鳴沢村前原から南都留郡富士河口湖町船津間約7.1kmの電線共同溝を整備するもので、富士北麓地域の景観の向上及び、安全で快適な通行空間の確保を図るものです。



【令和3年度の予定】

調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進します。

■ 状況写真



富士山の眺望を障害する電柱電線類
[令和元年4月撮影]

【事業の効果】

電線共同溝の整備により、道路の防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保、良好な景観の形成等に寄与することが期待されます。

【その他の無電柱化事業】

箇所名	令和3年度の事業内容
国道139号 本栖精進電線共同溝	調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進
国道139号 鳴沢電線共同溝	調査設計、本体工事(引込連系管路工事等を含む)を推進

日本風景街道

「日本風景街道」は、地域住民や企業と行政の協働により、

- (1)道の担う役割の復古・再生
- (2)地域の資産の活用
- (3)新たな、多様な価値の創造
- (4)使われ方の負の遺産の清算等

を目的として、自然、歴史、文化、風景などをテーマに、「訪れる人」と「迎える地域」の豊かな交流による地域コミュニティの再生を目指し、美しい街道空間の形成を図ることを目指す取り組みです。

つまり、沿道の景観を良くするだけでなく、地域の財産を守り、育み、活用するまちづくりと、そこに人々を招くためのみちづくりを一体的に行おうとする新しい取り組みです。

山梨県内では、下記の2地区で活動を行っています。

●ぐるり富士山風景街道

～富士山の見える道風景、富士山をぐるりと巡る道風景を守り・創り・伝えていく～

ぐるり富士山風景街道は、平成31年度日本風景街道関東優秀特別賞を受賞しました。

【活動の概要】

- ・NPOが中心となり、道路関係の行政だけでなく多様な組織が参加し、清掃活動を実施
- ・従来の景観保全・環境保全活動に新たな視点を入れながら活動し、各参加団体のWebだけでなく、活動映像をYouTubeで紹介する等、ごみの投棄防止啓発や活動紹介を継続的に実施



清掃・美化活動の様子



表彰式の様子

●八ヶ岳南麓風景街道

～八ヶ岳南麓の、雄大な山岳風景が広がり野生動植物を育む山麓と、自然の恵みを糧として暮らしてきた人々の文化と歴史が息づく里山の、ふたつの地域を巡り、学び、楽しみ、肌で感じる事ができる道を創っていく。～

眺望ポイント(景色を眺めるのによいポイント)となる場所のガードレールや防護柵を景観に溶け込む色に塗り替え等の活動を行っています。



(塗り替え前)



(塗り替え後)

維持管理(道路施設の補修①)

【事業の概要】

甲府河川国道事務所では、国道20号、52号、138号、139号、中部横断自動車道の5路線、総延長約255kmを管理しています。

安全で円滑な交通を確保するため、道路巡回、道路清掃等日常管理等を実施しています。

また、令和3年度から令和7年度までの5年間で、メンテナンスに係るトータルコストの増大のみならず、社会経済システムを機能不全に陥らせるおそれのあるインフラの老朽化から、国民の生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持することができるよう、防災・減災、国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図るため、法面・盛土対策や橋梁・トンネル・道路附属物、舗装の修繕等を集中的に取り組んでいます。

【令和3年度の予定】

1. 道路管理施設等の点検

橋梁点検、トンネル点検、横断歩道橋点検、道路附属物点検、のり面工・土工
構造物点検、防災点検 等



橋梁点検実施状況



トンネル点検実施状況



道路附属物点検実施状況



防災点検(ブロック積)実施状況

維持管理(道路施設の補修②)

2. 道路管理施設等の補修・対策

【老朽化対策】

橋梁補修

国道 52号 : はきい 波木井高架橋、てうちさわ 手打沢橋 他



橋梁補修の事例(伸縮装置取替工)



橋梁耐震補強の事例(橋脚巻立て、落橋防止)

【防災・震災対策】

耐震補強

国道 52号 : にしじま 西島第2橋、かいうん 開運橋、はきい 新波木井橋

維持管理(日常の管理)

3. 日常管理

一般交通に支障をきたさないよう道路を常時良好な状態に保ち、道路利用者などに対して安全で円滑な交通を確保するために、道路巡回、道路清掃、除草、及び樹木の剪定・伐採などの各作業を実施します。

また、除雪については、関係機関と連携しながら、必要に応じて災害対策基本法に基づく指定区間の通行止めや車両移動等を行い、着実かつ効率的な除雪作業を実施します。



道路巡回状況



道路清掃作業状況



除草作業状況



除雪作業状況



樹木剪定状況



緊急対応状況(落下物処理)

道路メンテナンス会議

～県内の道路管理者が連携して道路橋等の老朽化対策を進めています～

【事業の概要】

山梨県内の道路橋の約60%は、1950年代後半から1980年代前半にかけて建設されており、建設後50年を経過した橋梁が数多く存在しています。

こうした道路施設の老朽化に対応して、適切な維持管理を行っていくことを目的として、点検基準の法定化、国による修繕等代行制度の創設について、平成25年6月に道路法が改正され、平成26年度から、すべての道路管理者に対して5年に1回の近接目視点検を実施することが義務付けられました。

これを受けてメンテナンスサイクル(点検→診断→措置→記録)を回す仕組みとして、県内のすべての道路管理者が参画する「山梨県道路メンテナンス会議」が平成26年5月に設置されました。

【令和3年度の予定】

山梨県内の道路施設を安心して利用できるように、県内のすべての道路管理者と協力して、メンテナンスサイクルの実施に取り組みます。

跨線橋の点検や修繕工事にあたっては、鉄道事業者との協議が円滑に進むように、道路管理者の点検計画や修繕計画を一括してとりまとめ、鉄道事業者と調整する連絡会を実施します。

自治体支援を目的とした「地域一括発注」、道路管理者としての点検技術力の向上を目的とする研修や講習会を実施します。

道路利用者や地域住民の皆さんから、道路施設の老朽化の現状と対策への理解を得るための取り組みも進めてまいります。

【参考】令和2年度の主な取組



山梨県道路メンテナンス会議
(コロナ禍によるオンライン開催)

- 令和2年度山梨県道路メンテナンス会議 R3. 2. 3
- 令和2年度山梨県道路鉄道連絡会議 R3. 2. 3



新技術講習会
(構造物点検ロボットシステム)

- 学生を対象とした橋梁点検の講習、実習 R3. 1. 19
- 新技術講習会(点検支援技術の活用等) R2. 12. 9

道路高架区間を緊急避難場所として活用

【事業の概要】

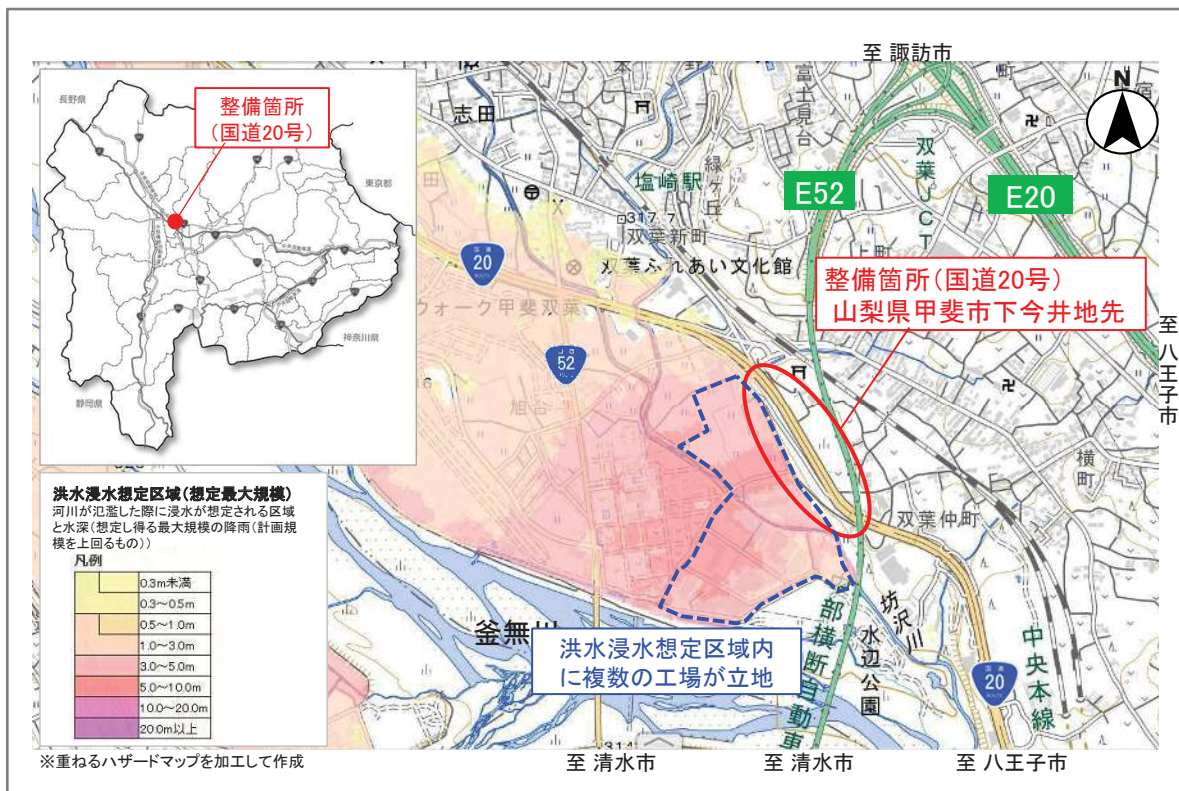
国土交通省では、東日本大震災を教訓に道路の高架区間等を津波や洪水時の緊急避難場所として活用する取組を推進しています。

緊急避難場所として活用するニーズのある、山梨県甲斐市下今井地先の国道20号において避難施設整備を実施するものです。

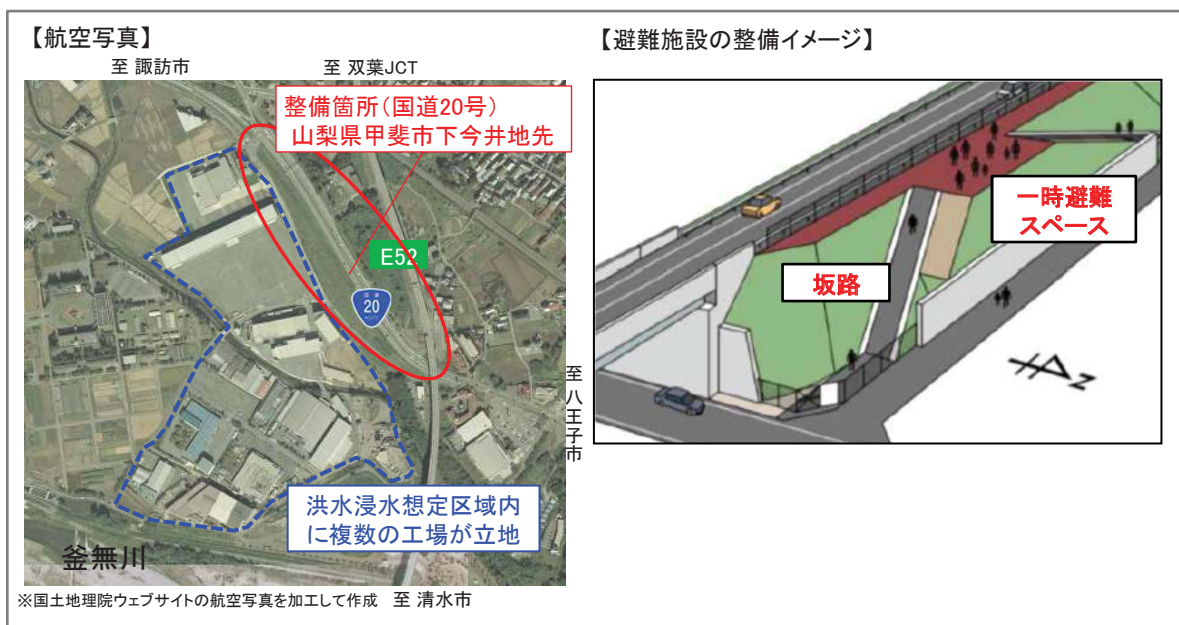
【令和3年度の予定】

調査設計、避難施設整備を実施します。

◆ 整備箇所図



◆ 現地状況



※国土地理院ウェブサイトの航空写真を加工して作成 至清水市

道路災害復旧事業

ほううんじばし

国道20号 法雲寺橋災害復旧

【事業の概要】

法雲寺橋は、国道20号大月市初狩町下初狩地先に位置し、昭和34年に施工された橋梁です。令和元年10月の台風19号による異常降雨により、甲府側のP6及びP7橋脚が沈下し、被災しました。

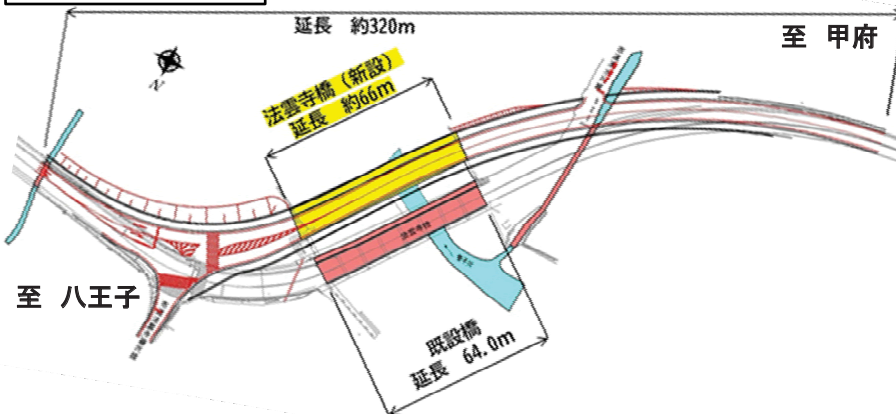
発災直後より、応急復旧工事に着手し、翌月11月29日に応急復旧が完了し、現在、令和3年度内の本復旧に向けて、新設橋梁工事及び改良舗装工事を推進します。令和3年2月に仮設歩道橋が完成しました。



【令和3年度の予定】

引き続き令和3年度内の本復旧に向け、調査設計、用地買収、橋梁の工事を推進します。

本復旧 イメージ図



仮設歩道橋

■ 応急復旧状況写真 [令和3年4月撮影]



■ 被災状況写真



【事業の効果】

法雲寺橋の架替えにより、車道幅員の見直しや両側に歩道が整備されることで、歩行者等の安全・安心の向上が期待されます。

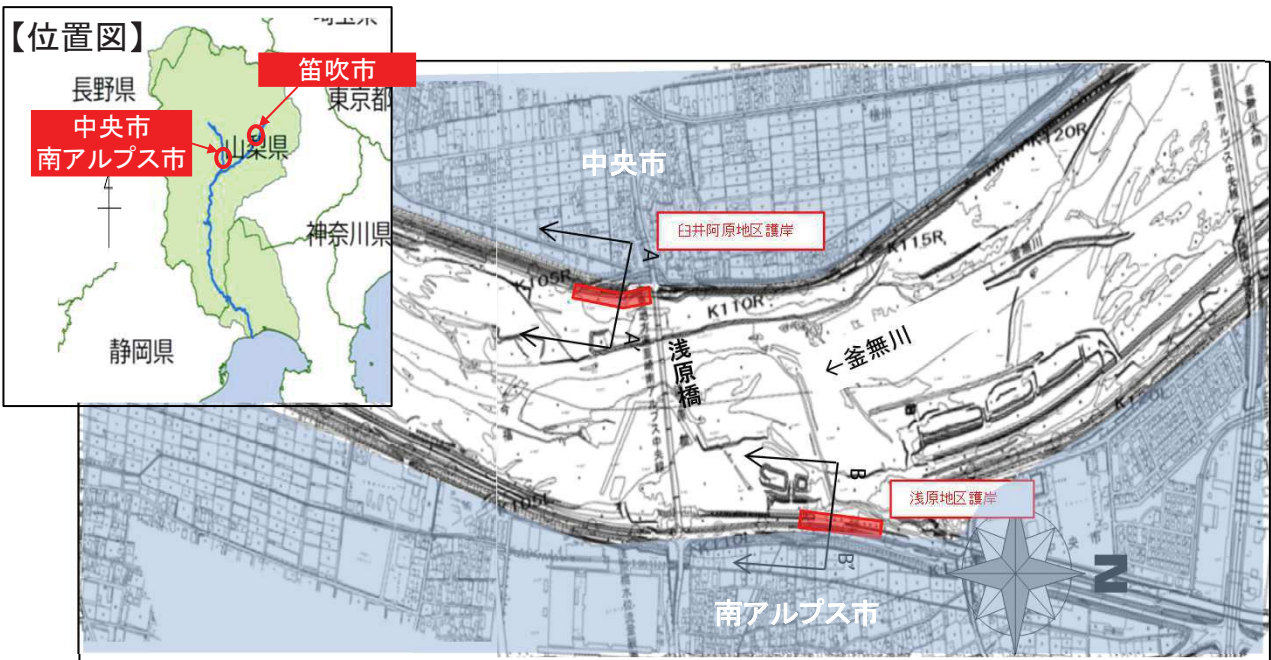
防災・減災対策等強化事業推進(釜無川・笛吹川)

【事業の概要】

釜無川・笛吹川において、今後の豪雨に対し、河岸侵食による破堤のリスクを防ぐ必要があるため、推進費を活用して緊急的に護岸整備を行うことで再度災害防止を図り、地域住民の安全・安心を確保します。

【令和3年度の予定】

釜無川の中央市臼井阿原地区、南アルプス市浅原地区、笛吹川の笛吹市桑戸地区において護岸の整備を実施します。



【事業の効果】

堤防強化対策として護岸を整備し、侵食による浸水被害の安全性の向上を図ります。

インフラDX(河川事業)

～建設生産・管理システム全体の生産性向上に向けて～

【工事現場での取組状況】

甲府河川国道事務所が発注している工事現場において、各施工段階で生産性向上に向けたICT施工を実施しています。

3次元起工測量

従来の起工測量に比べ、詳細な3次元地形データを一括で広範囲で取得でき、測量時間の短縮や設計時に不足していた地形情報などの測量データも取得でき、生産性の向上に寄与しています。



UAVによる起工測量

ICT建設機械による施工

ICT建設機械を活用することで、丁張りの作業が不要となり、労働力の低減、工期短縮が図られます。

また、掘削や法面整形の作業においては、設定した数値での土工が行われるため、手直しのための作業や測量の手間を省くことができます。



ICT建設機械による掘削



ICT建設機械による法面整形

インフラDX(河川事業)

～建設生産・管理システム全体の生産性向上に向けて～

【UAV等により取得した3次元点群データを活用した河道堆積・樹木繁茂状況の把握】

●概要

UAV等を活用した3次元点群データや空中写真撮影から作成する数値地形図により、河道整正後の河床変動の把握、樹木の高さをモニタリングしました。

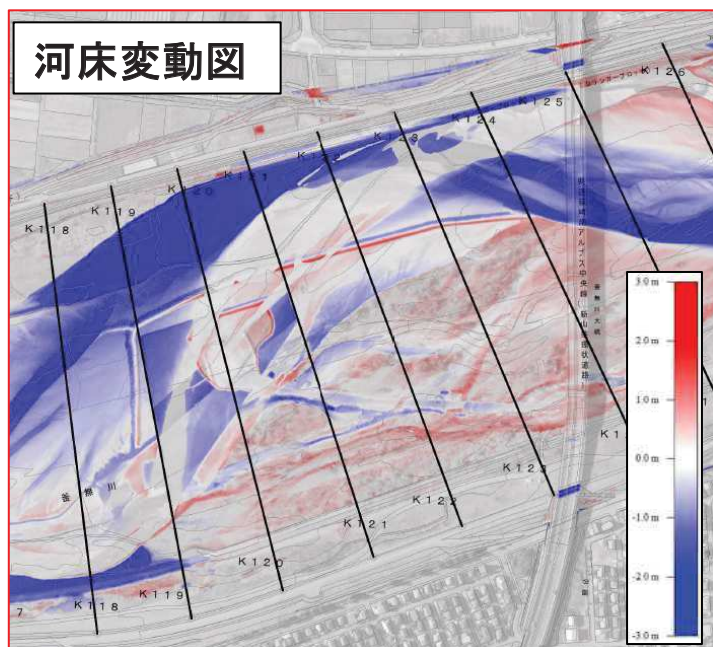
●取組内容

UAV等を活用して3次元点群データを取得

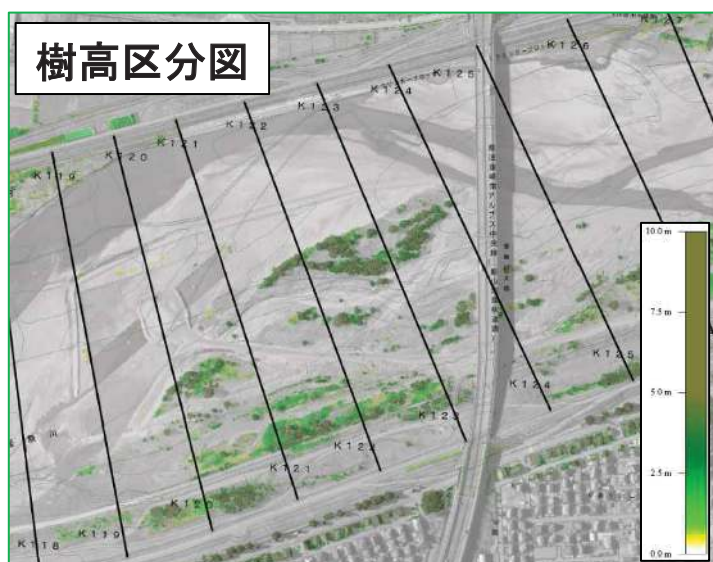
画像処理を行う事で河床変動図・樹高区分図を作成

出水後等に再度UAV等により3次元点群データを取得

データを比較することで差分を算出し影響を評価分析



※河床変動図はH24とH30の比較



●効果等

- ・点群データを加工することで、視覚的にも理解できる成果が得られました。
- ・出水後等に撮影することで河道整正後の堆積状況、樹高等をとりまとめ評価・分析することができます。

インフラDX(道路事業)

～建設生産・管理システム全体の生産性向上に向けて～

【概要】

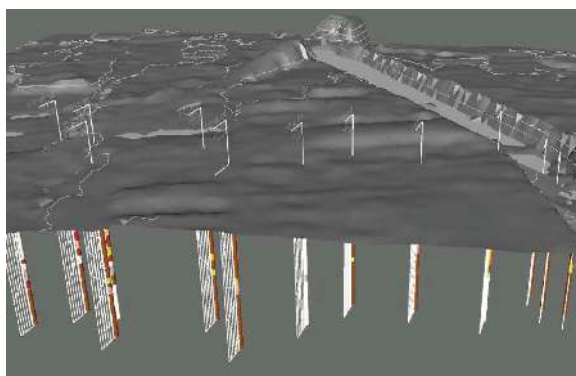
国土交通省では、データとデジタル技術を活用し、非接触・リモート型の働き方への転換と抜本的な生産性や安全性向上を図るため、インフラ分野のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進しています。

甲府河川国道事務所は、平成31年3月に全国10事務所の「i-Constructionモデル事務所」として選定され、i-Constructionを一層促進し、CIMをはじめ3次元データの活用、ICT施工、遠隔臨場に取り組み、建設生産・管理システム全体の効率化を進めます。

【甲府河川国道事務所での3次元データ活用の取組状況】

1. 設計段階

- ①設計照査への活用
→交差道路や支障物との離隔確認
- ②地質、土質上の課題把握や関係者間協議、施工性や維持管理性の確認への活用



地質調査の結果を基に地中の状況を再現

2. 施工段階

- ①設計確認の品質向上
→3次元設計データを活用した鉄筋の干渉確認
- ②施工作業の安全性・理解度向上
- ③映像、通信機器等を活用した遠隔臨場を実施し監督・検査の効率化等



遠隔臨場の様子(左:監督職員、右:工事現場)

3. 管理段階

- ①構造物の変状把握
→3次元点群データ等を活用した車線規制を伴わないトンネル変状把握
- ②将来的には3次元モデルに各種データを格納し一元化による管理の効率化を検討



3次元モデルを作成して各種の設計、施工データを格納する一元管理のイメージ

甲府河川国道事務所ではi-Constructionを推進するために、設計・施工・管理の各段階において3次元データ活用の取組を行ってきました。令和3年度も引き続き3次元データ活用を推進していきます。